MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

1999年
ノーベル平和賞受賞

Frontline

国境を超えて命と向き合う

［フロントライン］
Vol.12
June 1, 2014

Feature

結核の診断と治療を変えたい

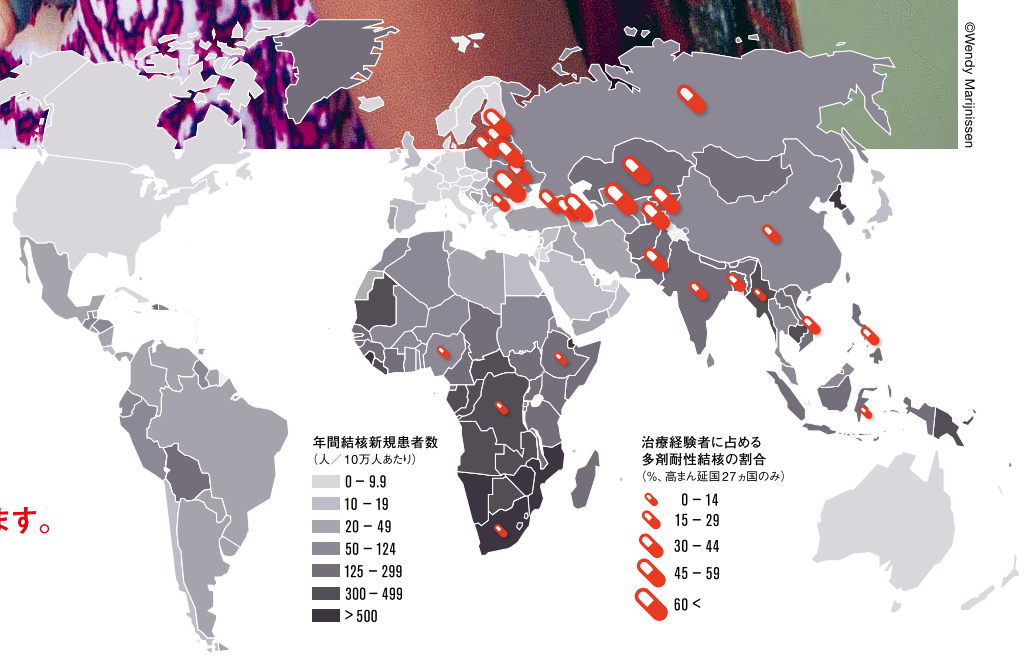
［インタビュー］
続けるしかない
長く、つらい結核治療を
寄り添い、支える

古くて新しい病気、結核。

国境なき医師団（MSF）の患者の1人、タジキスタンのシャモサさん（16歳）。特に治療の困難な「超多剤耐性結核」を発病し、腎不全など薬の強い副作用と闘いながら治療を続けている。

©Wendy Marijnissen

日本でも毎年２万人以上が発病する結核は、決して過去の病気ではありません。世界人口の３分の１、約20億人が感染していると見られ、HIV/エイズ、マラリアと並ぶ世界三大感染症の一つです。実際に発病する人は1割程度ですが、貧困地域を中心に年間約130万人の命を奪っています。さらに、この病気には新たな課題も。薬に耐性をもち、治療の難しい結核菌が増えているのです。早急な対策が求められています。



MAP：WHOの推計による、年間の結核新規患者数と、主要治療薬2種が効かない「多剤耐性結核」が結核治療経験者に占める割合（高まん延国27ヵ国のみ）。適切な診断法が普及せず、実態を把握できていない国も多い。

結核の診断と治療を、変えたい。

薬剤耐性結核が拡大する中、開発途上国などでは適切な診断法や治療が普及せず、世界の患者の8割が適切な治療を受けていません。また、過去の病気として顧みられず、50年も新薬が開発されなかった結核の治療法は、患者に大きな負担を強いています。世界30ヵ国で結核対策を支援する国境なき医師団（MSF）は、“もっと診断を!　よりよい治療を!”という患者とスタッフの声を、国際社会に発信しています。

©MSF

毎日20錠もの薬を
2年間飲みつづける——

マリアム・ダビチャン（仮名）
アルメニア出身、21歳。首都エレバンにある大学で心理学を専攻中。2009年に結核と診断され、その後、3つの治療薬に耐性をもつ薬剤耐性結核と診断され、MSFが支援する病院で治療を受ける。

治療開始から15ヵ月　副作用によるつらさから、服薬治療を断念してしまわぬよう、医師は患者の服薬を直接確認する。

薬剤耐性結核が私から奪えなかったもの

薬剤耐性結核の治療には、約2年もの年月を要します。その間、患者は毎日、最大20錠もの多量の薬を服用し、吐き気や腹痛などの副作用をたたかわなくてはなりません。MSFが支援するアルメニアの病院でその治療を乗り越えた、一人の女性が経験をつづりました。

流産後の宣告

私が結核と診断されたのは、待ちに待った赤ちゃんを流産し、深い悲しみの中にいるときのことでした。咳（せき）、発熱、背中の痛みで、眠ることさえままならず、私は病院へ行ったのです。診察後、医師から結核だと告げられました。なじみのない病名で、私は何もイメージできませんでした。

当時、私は夫と暮らすために、アルメニアからロシアに引っ越したばかりでしたが、入院して治療するため、私は夫をロシアに残し、1人でアルメニアに戻りました。治療は功を奏し、数ヵ月後には、「退院したら、空港に迎えに来る夫のためにも美容院に行ってきれいになりたい」、そんなことを思えるまでに回復しました。実際に、私は退院を認められ、自宅で経過観察に。しかし、夫に会う間もなく、肺に水がたまり再入院。そして、原因を調べた医師から、「薬剤耐性結核にかかっています」と告げられたのです。

©MSF

治療開始から13ヵ月　退院の日を思い描きながら空を仰ぐマリアムさん。

副作用に耐えられず……

結核患者は皆、薬剤耐性結核にだけはかかりたくないと怖がっています。私も、治らない病気だと思っていました。でも、運命の列車は私を「薬剤耐性結核」駅に運んだのです。

毎日15～20錠の薬を飲み、痛みを伴う注射を打つ。副作用はすぐに現れました。ひどい吐き気に加え、視力や聴力が安定せず耳鳴りが続きます。背中は重く、呼吸がしづらい。「こんなに苦しい状態を“治療”と言えるの？　このままでは気が変になるか、飲んでいる薬のせいで死んでしまう」と本気で思いました。赤ちゃんを亡くし、夫にも会うこともできず、その上、地獄のような副作用。他の患者が亡くなるのももう見たくない。治療開始から2週間で、私は限界を感じ、病院を飛び出しました。

私の人生は“ゼロ”になった

その後、MSFのスタッフが何度も電話をかけてきてくれて、治療を再開するよう説得されましたが、私は聞く耳を持てませんでした。当然のことながら病状は悪化。結核の症状はつらいけれど、治療もつらい。正直、どうしたらいいのか分からなくなりました。

自分に必要なのは、精神的な支えだと気づき、ロシアから夫に来てもらいました。でも、夫はロシアに住むことを望みました。私たちは離婚するしかありませんでした。

結核にすべてを奪われ、私の人生は“ゼロ”になりました。再び何かを積み上げていくには、まず結核を治さなくてはなりません。副作用への恐怖はありましたが、私は自らMSFのスタッフに連絡をし、「治るまで私を支えてください」とお願いしたのです。

それから2年。主治医とMSFのスタッフが、希望と自信を与えつづけてくれたおかげで、私は治療を完了させることができました。私からすべてを奪った結核も、希望までは奪えなかったのです。いつもそばにいて、私を支えてくれたMSFスタッフの皆さんには本当に感謝しています。私は、いま、とても幸せです。

世界30ヵ国で結核対策を支えるMSF

南スーダンなどの紛争地から、カンボジア、アルメニアなど結核まん延率の高いアジア、東欧諸国まで、MSFは世界30ヵ国で結核対策活動を展開。検査設備や治療薬の提供、毎日服薬を見守り治療に寄り添う家庭訪問などのサポート、感染拡大を食い止める診断システムの導入など、各地の状況に応じた活動を通じ、年間約3万人に新たに治療を開始しています（2012年実績）。

©Matthew Smeal / MSF

カンボジアでは検査を呼びかけ、患者を探す活動も。

ソ連邦からの独立以降、結核が拡大したアルメニアは、薬剤耐性結核のまん延率も非常に高く、MSFは2005年から対策支援を開始しました。診断・治療の改善を行い、治療の継続を支えるため患者と家族に教育や社会・心理支援を提供する現地保健省の取り組みをサポート。2013年には193人の新規患者をプログラムに受け入れ、また、新薬の「コンパッショネート・ユース（人道的使用）*」導入を支援しました。

*コンパッショネート・ユース
人道的配慮から、生死に関わる病気の患者に対し、販売承認に先立って未認可薬の使用を認める制度。

治療開始から18ヵ月　長く険しい治療の道のりを、共に歩み、励ましてくれる医療スタッフは必要不可欠な存在だ。

©Eddy McCall/MSF

※この記事は、マリアムさんが自身のブログを通じて発信した内容を編集したものです。

“みんなに伝えたい”マリアムメッセージ動画はこちら
MSF ビデオ マリアム

CHECK! あなたは結核について、どれくらいご存じですか?

どんな病気?

結核菌を原因とする感染症です。感染した人の約10人に1人が発病します。HIV/エイズや糖尿病の患者、過労など、免疫力が弱い場合は発病のリスクが高くなります。

結核の症状って?

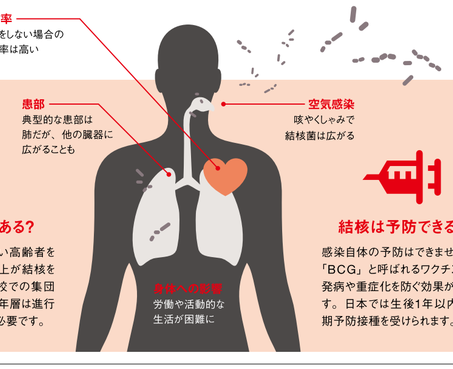
主に肺に影響し、咳、痰（たん）（血が混じることも）、微熱が数週間続くのが特徴的な初期症状。進行すると肺を破壊し、他の臓器不全も起こして命の危機を招きます。

どうやって感染する?

結核は空気感染します。例えば密閉された空間で、結核の発病者が咳をして排菌した場合、少量の空気を吸い込んだだけでも感染する可能性があります。

日本でもまだある?

日本でも免疫力の弱い高齢者を中心に年間2万人以上が結核を発病しています。学校での集団感染も起きており、若年層は進行が早いため、注意が必要です。



結核は予防できる?

感染自体の予防はできませんが、「BCG」と呼ばれるワクチンには発病や重症化を防ぐ効果があります。日本では生後1年以内に定期予防接種を受けられます。

薬で完治する?

早期の診断が受けられれば治療による完治が可能ですが、放置しておくと約6割が死亡します。また、治療を中断すると菌が薬剤に耐性をもつことがあります。

元患者の声　**成瀬匡則**さん（東京都在住・39歳）

弱っていく心を支えるのは、人の力

感染したのは電車の中か飲食店か、いまも不明です。薬剤耐性結核と診断されたときは信じられない気持ちで、2年間の治療に入りました。大量の服薬と副作用、体もつらいのですが、隔離病棟での孤独と不安は心もむしばみます。家族や友人の支え、患者仲間の存在に救われました。患者の苦悩を知る同志として、世界中の誰もが公平に治療を受けられること、結核の正しい知識と情報が与えられることを願います。

MSFの患者とスタッフが呼びかける

結核マニフェスト

薬剤耐性結核の現状を変えるには——世界中の患者や医療スタッフが上げた声から、支援の輪が広がっています。

診断、治療の普及

薬剤耐性結核の診断は高度な技術が必要で、治療も通常の結核治療とは異なります。薬剤耐性結核に有効な治療を受けているのは、患者の5人に1人。適切な診断と治療の普及を望みます。

治療法の向上

副作用が少なく、完治するまで服用しつづけられる薬、より短い治療期間で済む薬、より多くの人が入手できるよう価格を抑えた薬を、研究機関や製薬会社が早期に実現することを望みます。

支援、資金援助の拡大

上記2点の実現に向けて、各国政府や国際機関が研究・開発の支援や資金援助を拡大することを望みます。

MSFの「結核マニフェスト」とは

より多くの人が適切な診断と治療を受けられるよう、つらい治療が改善されるようにと、MSFは2013年3月に「結核マニフェスト」を策定、発表しました。国際社会が取り組むべき3つの対策を掲げ、薬剤耐性結核患者と医療スタッフが共同執筆した文書です。今年3月から、広く社会にマニフェストへの賛同を求めるキャンペーンを展開したところ、世界5万人以上（うち日本は2000人以上）から署名が寄せられ、5月のWHO総会で各国代表や関係機関に提出しました。

「結核マニフェスト」と
キャンペーンの詳細はこちら
www.msf.or.jp/tb2014/

©Sydelle Willow Smith

超薬剤耐性結核を克服した、南アフリカ共和国出身のフメザ・ティジールさんと担当のジェニファー・ヒューズ医師。マニフェストの共同執筆者。

世界中の声を集めたムービーはこちら
MSF ビデオ Test Me

結核は国境を越える——日本も取り組むべき課題

吉山 崇　（公財）結核予防会 結核研究所 研究主幹／同会複十字病院 診療主幹

結核予防会は、まだ日本に結核患者が多かった昭和14年に設立され、主に結核の研究、診療、広報活動に取り組み、国際協力も行っています。今日の日本では、年間で約2万人が結核を発病し、約2000人が亡くなっており、まだ油断はできません。また発病者の約1%が[1]薬剤耐性結核と見られています。

一方、世界では推計で年間900万人が結核を発病しており、開発途上国では薬剤耐性結核の割合も非常に高くなっています。結核は空気感染し、国境を簡単に越える病気ですから、国際的に取り組まなければなりません。

国内外ともに重要なのは早期診断・早期治療。結核と診断され、治療を開始すれば、周囲への感染リスクは激減しますし、重症化してから治療しても手遅れの場合もあります。

日本では結核診断の際に必ず薬剤耐性を調べる培養検査も行いますが、途上国では培養の設備も検査技師も絶対的に不足し、薬剤耐性結核を発見しきれていません。治療費も高額なので、診断と治療を十分に普及するには国際援助が不可欠なのです。MSFの「結核マニフェスト」が訴える内容はこの点で意義深く、また日本人も関心をもつべき課題です。

2009年より現職。薬剤耐性結核を含む結核の研究・治療にあたる。イエメン、ネパールなどでの結核対策支援の経験ももつ。

続けるしかない 長く、つらい結核治療を 寄り添い、支える

©Shumpei Tachi / MSF

高谷紗帆（内科医／アルメニア）
2008年、北海道大学医学部卒。感染症、熱帯医学が専門。アルメニアでの活動後は熱帯医学の修士号をとるため留学予定。

2014年1月、私は初めてMSFに参加することになり、結核予防プログラムのマネージャーとして、西アジアの旧ソ連邦の国、アルメニアに着任しました。アルメニアは結核の感染率が高い国の一つですが、特に、通常の治療薬が効かない薬剤耐性結核の感染拡大が懸念されています。着任から3ヵ月が過ぎ、仕事にも生活にもだいぶ慣れましたが、当初は、「自分にできるのだろうか」と不安を感じる毎日でした。でもいまは、「できないこと」に執着するのではなく、「できること」に力を注ごうと決めて仕事をしています。結核の患者さんの中には、HIVにも感染していたり、糖尿病を併発している患者さんもいるので、合併症のコントロール方法改善を自分のテーマに据えて、挑戦しています。一朝一夕には進みませんが、患者さんのことを第一に考え、できることは何でもやっていきたいと考えています。

副作用が出る薬と分かっていても他に選択肢がない

私の役割は主に、現地保健省の医師のサポートです。MSFの医師として、現地ドクターの意をくみつつ、患者さんの話にも耳を傾け、患者さんが納得して治療に臨めるように努めています。

©MSF
チームで患者さん宅を訪問し、話をじっくり聞く。

薬剤耐性結核の大きな問題は副作用です。吐き気と腹痛はまず出るだろうと思いながら、その薬を出します。副作用は人によって違い、対症的な薬も使用します。回診に行くと、薬の服用後に横になってつらそうにしている患者さんが多いです。具合が悪くなると分かっていてもその薬を飲まなければならない。2週間なら頑張れるかもしれないが、2年はつらい。飲み薬以外にも、痛みを伴う筋肉注射、静脈注射も受けなくてはならない。自分なら耐えられるかどうか分かりません。日本での治療も同じですが、患者さんが抱える問題を、解決できないこともあります。特に薬剤耐性結核では他に選択肢がありません。私たちにできるのは、患者さんの声に耳を傾け、説明を尽くすことだけです。

MSFのチームには、看護師やカウンセラー、ソーシャルワーカーもそろっていて、患者さんの状況に応じて必要なスタッフが患者さんに寄り添い、しっかりと支えています。そして、MSFがいなくなっても続けられるよう、治療や支援のノウハウを現地の医療従事者に伝えています。

人生のわずかな時間を人道援助に投じる

私がMSFのことを知ったのは、医学生時代に参加した「難民キャンプ展」でのことです。「医者として、こんな働き方もあるんだ」と、とても魅力的に感じました。卒業後は感染症を専門にしたこともあり、MSFで活動することは、経験を積み、専門性を高めることにもつながると思い、応募しました。

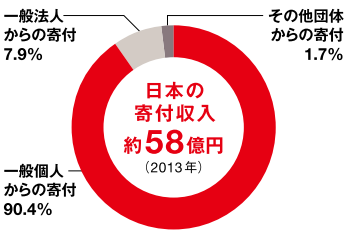
日本で働く医師にとって、半年以上の休みを取り、海外で援助活動をすることは、とても難しいことです。医療従事者に限らず、既に仕事に就いている場合はこうした活動への参加に踏み切れないことも多いと思います。マザー・テレサのように一生涯を投じなくても、人道援助はできます。MSFに参加しながらでも、自分のキャリアや人生を築いていけるということを、多くの皆さんが知り、共感していただけたらうれしいです。

MSFとつながる

いまからできる、国境なき医師団（MSF）の活動に協力する3つのカタチ

支援する SUPPORT

資金は100%民間から



支援者総数：約27万人

MSF日本の活動はすべて民間の寄付に支えられています。世界に届く、医療・人道援助活動に、ぜひご協力ください。

寄付のお申し込み・資料請求は
［お電話で］通話料無料（9:00～19:00/無休）
0120-999-199
［ウェブサイトで］
国境なき医師団　寄付

参加する WORK

活動地への第一歩

人事部長
モナ・エルボレイ

“MSFの海外派遣スタッフは、世界中の国や地域で、日々、貴重な経験を積み重ねています。活動参加の第一歩を、ぜひ踏み出してください。”

2014年5月21日現在、MSF日本から、42人の医療・非医療スタッフが18ヵ国で医療援助活動に参加しています。

スタッフ登録の詳しい情報は
国境なき医師団　参加

伝える JOIN

動画コンテンツも!

百聞は一見にしかず！ 世界の現状を、見て、確かめて、そしてシェアしてください。最新活動ニュース、現地からのビデオ・レター、結核やワクチンなどの知識を簡単に学べるアニメも充実。YouTubeの国境なき医師団日本サイトにぜひおいでください。

SNSで医療・人道援助活動をシェア！

メルマガのご登録は
国境なき医師団　メルマガ

MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

国境なき医師団/Médecins Sans Frontières（略称MSF）は、1971年にフランスで設立された非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体。

医師、看護師などの医療従事者とアドミニストレーターなどの非医療従事者、のべ6000人の派遣スタッフが、約3万人の現地スタッフとともに、約70の国と地域で活動を行う（2012年実績）。「独立・中立・公平」を原則とし、人種や政治、宗教にかかわらず無償で医療を提供する。また、援助活動の現場で虐殺や強制移住などの著しい人権侵害や圧倒的な医療の不足を目の当たりにしたとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言している。1999年、ノーベル平和賞受賞。

MSF日本は1992年に設立され、2013年までに293人のスタッフを、のべ874回、活動地に派遣。MSF日本の活動資金はすべて、個人を中心とする民間からの寄付金でまかなわれている。

バックナンバーはすべてウェブサイトでご覧いただけます。

トップページ下段から「MSF図書館」へ

［近刊のテーマ］
Vol.8　日常を追われた難民・国内避難民への医療
Vol.9　市民からの寄付が実現する医療活動
Vol.10 医療がない場所へ赴くことへの挑戦
Vol.11 国境なき医師団の証言活動
Vol.12 古くて新しい病気、結核。〈New!〉
Vol.13 活動を決断するとき（次号・9月発行予定）

Frontline
国境を超えて命と向き合う
［フロントライン］
2014年6月1日発行
第12号
特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

Frontlineのご感想をお寄せください。
〒162-0045　東京都新宿区馬場下町1－1 早稲田SIAビル3階
国境なき医師団日本「Frontline編集部」
frontline@tokyo.msf.org
TEL 0120-999-199
通話料無料（9:00～19:00/無休）
WEB www.msf.or.jp

編集協力：（株）トライ　アートディレクション&デザイン：Concent, Inc.

お知らせ ルワンダ虐殺をテーマにした「世界難民の日 国際シンポジウム」にMSFの専門家が出席。6月20日（金）18:20～立教大学（東京・池袋）詳細・参加申し込み www.msf.or.jp/rwanda20